水産教室で稚エビを放流

新松浦漁業協同組合福島事業所と県は６月28日、福島養源小学校の４年生22人を対象に、水産教室を開きました。

今年で５年目となるこの取り組みは、地元の水産業に興味を持ち、理解を深めてもらおうと毎年実施されています。

子どもたちは、クルマエビの養殖場や設備を見学したあと、クルマエビの生態や飼料、出荷方法について説明を受け、最後に養殖場へ稚エビ約300尾を放流しました。

昔ながらの田植え体験

志佐小学校５年生81人は６月22日、体験学習として志佐町浦免の水田で、田植えを行いました。同校は、田植えのほかサツマイモなどを育て、地元の農業や食への関心を深め、食の大切さや感謝の心を養っています。

この日は老人クラブ「里不老会」のメンバー13人に説明を受けながら、苗の植え方を学びました。子どもたちは「苗はどうやって育てるの？」「大きく成長するには何が必要？」など質問し、大人たちとの交流を深めました。

対馬市から寄贈された木「ヒトツバタゴ」を植樹

市は６月17日、鷹島町にある市指定史跡・対馬小太郎の墓（鷹島・里）敷地内に対馬市から送られたヒトツバタゴの苗木４本を植樹しました。

この苗木は昨年開催した元寇サミットをきっかけに、交流の証として対馬市から寄贈されたもので、植樹する場所は対馬市ゆかりの場所として、対馬国守護大名・宗助国（そうすけくに）の家臣・対馬小太郎が眠る同地が選定しました。

小太郎は、弘安の役（1281年）で元軍と奮闘し重傷を負い、自刃する際に「我が屍（しかばね）を埋るに対馬を望むべき丘陵に於いてせよ」と言い残したと伝えられており、現在も対馬市の方角に向けて墓石が建立されています。

寄贈されたヒトツバタゴは、対馬市鰐浦（わにうら）地区一帯に多く自生しており、毎年５月頃には白く大きな花を咲かせ、対馬市の木にも指定されています。

まちの話題

教育振興等へ寄附

道の駅「松浦海のふるさと館」を運営する、松浦物産株式会社の川上茂男代表取締役が７月５日、市役所を訪れ、市長に目録を手渡しました。

同社は、売上金の一部を市に寄附しており、新市発足から今回で１５回目。

川上代表は「コロナ禍で学校のデジタル化を進めていると聞いている。教育振興等に役立ててほしい」と話し、市長は「子どもたちのために活用させていただきます」と謝辞を述べました。

V・ファーレン長崎 髙田社長が表敬訪問

長崎県をホームタウンとするサッカーチーム、V・ファーレン長崎（髙田春奈代表取締役社長、写真右から２人目）が６月28日、活動報告のため市役所を訪れました。

この日は、徳重健太選手、五月田星矢選手、クラブマスコットのヴィヴィくんも同席。

髙田社長は「これからも松浦市と近づける取り組みを行いたい。松浦市PRのためのお手伝いができればと考えています」と話し、市長と意見交換を行いました。

▲左から五月田選手、徳重選手

共同でボランティア活動

九州電力株式会社とJPGS株式会社*は、６月の環境月間活動の一環として発電所近隣の園児たち650人に、花の育成を通じて心身の成長と健康、環境に関心を持ってほしいと、千日紅（せんにちこう）やペンタスなどの彩り鮮やかな花苗を届けました。

また、６月28日には、両社と西九州共同港湾株式会社の３社で御厨町の大崎海水浴場の清掃を行い、流木や空き缶、プラスチックゴミを拾い集めました。

少年センター表彰

松浦市少年センター補導委員連絡協議会御厨地区補導委員は７月７日、「長崎県犯罪のない安全・安心まちづくり地域賞」を受賞しました。

この賞は、地域で自主防犯活動などに取り組む県内の優れた団体に対して贈られるものです。

同地区委員は、小中学校、御厨町警察官駐在所と一緒に月２回街頭補導を行い、終了後には情報交換を行うなど常に子どもたちを見守っています。地区幹事の力武一喜さんは「色々な職種の人が集まり活動しています。本当に感謝しています」と話しました。

*JPGS…ジェイパワージェネレーションサービス